

1 単元名 三角形

2 単元について

本単元では、構成する要素に着目して三角形の特徴を捉え直すことを通して、子どもの持つ図形の概念を豊かにすることをねらいとしている。これまでに子どもたちは、辺の数や頂点の数に着目して、三角形や四角形について学習してきた。本単元でも、構成する要素に着目して三角形を観察していくが、特に辺の長さに着目して三角形の特徴を捉え、二等辺三角形や正三角形を定義し、理解できるようにする。これまでに学習した四角形についても、辺の長さを観点として捉え直す活動をおこない、図形の概念を豊かにしていきたい。

本時では、1本のストローを切って三角形を作る活動をおこなう。1本のストローから三角形を作る場合、つまり辺を自分で作る場合には、辺の長さによっては、三角形にならないことがある。作ったものを共有する中で、子どもは、いつでも三角形が作れるわけではないということに気づくであろう。そして、三角形にならなかったものを集め、その特徴を考察していく。そうすることで、子どもは、三角形ができるのはどのようなときかを考えていくことができるのではないかと考える。

三角形が成立する条件は、1辺の長さが他の2辺の長さの和より小さいことであるが、このような言葉でまとめることは、第3学年の子どもにとっては容易ではない。しかし、実際に三角形が成立しない状態を作らせることで、「辺の長さが足りない」「もう少し長くないとできない」等の発言は十分に想定される。これらの発言を切り口に、三角形の辺の長さの関係に着目し、3年生なりに、三角形が成立する条件を考えることができるのではないかと考える。

本時の学習を通して、子どもが三角形を作るときに、辺の長さの関係に着目し、そもそも三角形が成立するかどうかを確かめる態度を育みたい。このような態度を大切にすることで、子どもの持つ図形の概念を豊かにしていきたいと考える。

3 学習指導計画(1時間目/全8時間)

第1次 いろいろな三角形 …本時1/5時間

第2次 角 …2時間

第3次 三角形の敷き詰め …1時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

辺の長さに着目し、三角形が成立する条件について考えることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 1本のストローから、いろいろな三角形を作る。	・「三角形にならないものがある」という発言を取り上げる。
2 作ったものを共有する。 ・三角形になったものと、ならないものがある。	・三角形ができない状態を全員に作らせる。 ・辺が「足りない」「届かない」という発言も取り上げ、あとどのくらいあれば良いのかも考えさせる。
3 三角形ができないのはどのようなときか、できるのはどのようなときかを考える。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

「三角形」の導入の授業としてどうだったのか。